

滋賀大学経済経営研究所調査資料室報⑪

XII 創立のころ(下)

——「彦根高商創立当時を語る」座談会」という記録——

(『彦根論叢』第351号より続く)

矢野校長 学校としては大津へ行くより、彦根へ来た方が良かったですね。大津だと京都へどんどん行ってしまつて、先生方も多くは京都へ住ひしてしまつて、教授会を俄かに召集する場合にも困るし、学校のまとまりが悪いでせうからね。

平塚町長 大津は京都の提灯持ちをしてゐる恰好になる。滋賀県の金を京都へ持つて行って居るといふ立前になる、彦根は町も狭いが、何処へ行つても高商の生徒が通つてゐる。その他、中学校、商業学校があり、一町歩いても三人か、五人の生徒に出会ふといふことはない位ですね。

原田教授 初めは犬上郡で取るといふことだつたのですね。大体の腹は彦根だつたでせうけれど。

平塚町長 郡会を纏めるのに彦根と云つては具合が悪いから、犬上郡で何処か適当なところと云つて居つたが、これは誰が考へても彦根です。然し色々の工作上、そんなことも必要だつた訳です。

安居氏 森知事は彦根に、大変好感を持つて居つたやうですね。

平塚氏 最初巡視に来た時、水利を見て歩き、大体の頭を作つた。それがあの港湾になつたのです。それから、八日市の飛行場を設けるのに奔走したのも、森知事です。荻田常太郎といふ愛知郡の者があつて、その人がフランスから小さな小型の飛行機を持つて帰つて来た。そして八日市の学校の一寸向ふに空地があつたのでそこで、飛行をやつて見た。すると皆んな初めてで、珍らしいことだから、沢山の人が見に来て狭いところを一層狭くしてしまつた。だから上つて降りて来る時に、人が一杯居るものだから怪我させてはと、思ひ、逆とん

ぼりに落ちて、飛行機の前を折つてしまつたことがあります。その後、例のスミスが来て飛行熱をあふり、其処を飛行場にしようといふことになつて、趣意書を作つて種々運動を起し、陸軍の方へも運動を仕掛けたので、陸軍からも調査に参りましたけれど、どうも滋賀県の気流が大変悪いから面白くないといふことでありました。その当時、池松知事が東京へ行つたりして奔走して呉れたけれど、気流が悪くていかぬから思ひ止まれ、と云つて来ました。ところが飛行熱が盛んであつたものですから、八日市でも運動を止めやうとせないで、後も続いてやつて居つた。その当時私は神崎に居りましたが、平塚君からも飛行場のことは思ひ切るやう、町長に云ふて呉れと云ふことでした。そうこうする中に、池松知事に代つて、森知事が来たので話をしたところ、八日市へ来た序でに実地を見て、一つ陸軍省に談判して来てやらう、と云つて、森知事の奔走で結局、飛行場を作る素地が出来て、何の位の坪数が出るか、地方からは何の位の寄附をするか、といふことが段々纏つて、あの飛行場が出来た訳ですが、これは全く森知事のお蔭でありました。そういふことで、飛行場が出来たところ、伊吹は一番風が強く当つて、とても気流が悪いから観測所を置こうといふことになつて、高層観測所を伊吹に置いたが、これも森知事のお蔭で、今日立派な国立高層観測所になつて居ります。

それから又、湖西の方にどうしても交通機関がなければいかんといふので、江若鉄道を思ひついたのも森知事で、皆んなに義務的に株を持たしてやりましたが、少しづつ延ばして、今日は今津まで通ずるやうになりました。その当時、安原氏は憲政党のチャキチャキであつたが、政友会に早変わりして、政友会の親方になり、その為、高島君は皆んな政友会になつてしまつた程です。

詰り、森知事は、大正六年十二月に来て、大正八年四月に宮城県に行つて居られますから、在任僅か一年四、五ヶ月位の間に、高商、港湾、八日市飛行場、高層観測所、江若鉄道といふ大きな功績を残して行かれたのです。矢野 地方長官会議の時に、私も傍聴して居つたが、非常に特徴のある人だつたやうですね。

平塚 京都に何か式の事があつて、知事として森さんが出席された。その時、麻の紋付の着物に袴を穿いて行かれた。すると、玄関で羽織をなければ入れません、と云つた、すると森さんは、羽織を着ることが正式と思つて居るか、日本の礼服は紋付、袴が正当で羽織を着るのは異法だ、と云つて、^[マ マ]遂々会場へ入つた、といふ話があります。

矢野校長 安居さんは、運動場の寄附金なんかに関係がおりますか。

安居氏 いや、それはないでせう。あれは、茲と商業学校の運動場の拡張と一緒に、それから田原さんのおつしやつた工業学校の問題がありました。

矢野校長 完成部と云つて運動場ばかりぢやなしに、色々の設備をやつたのです。それで、ボートも持つてゐるし、大きなプールもその関係で出来たし、野球、庭球のコートも、皆あれでやつたものですから、学校として非常に仕合をして居ります。そして後に、土地も拡げました。

渡辺氏 陵水といふのは、どういふのですか。

矢野校長 あれは同窓会の名前です。

矢野校長 完成部に就いては、前校長の中村さん自身が非常に困つて居られた問題で、私も何とか表彰して貰ひたいのですけれど、学友会の名で金を集めたものですから、政府からは何も褒美が貰へない訳です。今だに何か方法がないかと考へてゐるのですが、どうも正式な方法がないのです。何とか、その当時のことを書いて、沿革史でも作り、それに^[ママ]戴せて置こうといふ準備はして居るのですけれど。

安居氏 開校になりますと、職員の方がお見えになりますが、それに応はしい住宅がないので大変困りましたよ。

平塚町長 それで西榮に町営住宅を建て、職員の方にも入つて貰うといふことで、町が起債して作つたのです。

田原氏 土地会社があの官舎を作つたのですね。

矢野校長 私共の家の敷地は、土地会社がお持ちになつてゐるのですね。

渡辺氏 皆んなそれぞれ熱心にやりました。

平塚町長 よく記憶に留めて置いて頂きたいのは、前川善平君ですね、あの人は表向には余り顔を出さぬ人でしたが、内面的には非常に尽力する人で、あゝしたら良からう、こうしたら良からう、と相談にも乗って下さつたし、又向ふから気の附くことは話しても下さつた。高商の起りにも種々尽力され、何時も安居さん等とお会ひになつて世話して貰ひましたが、殊に内部的に知恵を貸して下され、指図もして貰つたのですが、よくもの事を理解され、且細かな観察の行届いた人でした。兎に角、高商の設立に就いては、最も有力な功労者の一人でした。

矢野校長 土地会社のあの建物を学校で買収したいと思つて、予算を貰ふやうにやつて居りますが、建物は段々古びて困るので、資源にならないものですから、文部省の方で承知しないんです。

安居氏 今は家屋が増えましたけれど、その当時は家屋がないので、非常に困つたのです。

平塚氏 高商の校医のことで、面白いと云へば可笑しい話ですけれど、中村さんが、学校で校医を頼みたいから、然る可き人を推薦して呉れと云はれ、私、色々考へた末、資格はないけれど、よく親切にやつて呉れる腰の軽い、気受の良い大日方君はどうでせうと云つて、推薦して置いたのです。その後、中村さんは八景亭に泊つて居られたから、私はその返事やなんかを聞きに行かうと思つて、八景亭に行きました。すると、小林君と藤田君とが二人居る、事情をそれとなく聞くと、小林君が藤田君を推薦して、中村さんが藤田君の見合をして居るところへ行き会したらしいので、何れ後からお返事するからと云ふやうなことで帰つて来ましたが、その時藤田君に決つた訳ですね。

矢野 公立病院の院長でもするといふ様な話はなかつたですか。

平塚 そういふやうな話は無つたと思ひます。

矢野 そういふ風にして居る学校は、可なり多いやうですね。

平塚 そういふ話は無くて、別に開業医を置きたいと云ふやうなことでした。大した手当も出せんが、中村さんの積りでは、資格者を得たいといふことがあ

つた。藤田君が来なかつたら大日方君になつて居たかも知れませんが、藤田君は北海道から間もない頃で、三番町に居られた時分でした。それから後に洋行したり、博士に成つたりなんかして、看板は学校の為にも、非常にいゝだらうと思ひます。

矢野校長 高商委員といふのがありましたが、それは彦根町だけの委員ですか。

安居氏 そうです。町だけのものです。

原田教授 記録を見ると、その委員が始終集つてゐますね。

矢野校長 藤田さんも高商委員に成つてゐますね。委員の会合毎に出て居られるので、藤田さんに電話したところ、そういふことが、ありましたか、とすっかり忘れて居られるらしいんです。

安居氏 知事が東上するといふやうな時には、委員が途中まで乗り込んで行つて、懇願したり奔走したものですな。

平塚町長 藤田さんは当時、県会議員だつたものですから、県道の延長が制限されるので、それを、拡張する為めの運動に行つて居つて、丁度、工業学校の問題にぶつかつたが、幸ひ東上して居つたものですから、電報を打つたりなんかして、東京で交渉して貰つて居つた堀田知事や、井上、吉田等の人々と色々交渉し、その衝に当つた人です。

矢野校長 その他に、殊に蔭になつてお世話下つた関係功勞者で、御氣附の方はありませんか。

安居氏 郡部では、中村市蔵君が一番熱心だつたですね。

平塚町長 それに、北川嘉平君とこの二人でせうね。

矢野校長 約束はして居つたが、暴落した為め、出すのに非常に困つたことがあつて、実際に申込んだ額だけ出さなかつた、といふやうなことはありませんでしたか。

平塚町長 大抵は出しました。分割してでも。

矢野校長 文部省から数回に亙り、寄附金の督促があつたといふことです。

渡辺氏 そんなに慌てゝ出すことはいらぬといふので、金があつても出すのを

引延ばして居つたのです。和歌山なんかも、そんなに出して居らんし。

矢野校長 福島は余り出さなかつたやうです。十万円程集つて居つたが、銀行が潰れたものですから。

原田教授 森県知事が、彦根町の有力者を招いて懇談会を開いてみますね、場所は県の公会堂です。

安居氏 そんなこともありましたかね。

平塚町長 懇談会があるから来るやうに伝えて呉れ、といふ通知が郡役所へ来て居つて、成る可く行つて貰ひたいと云ふて居りました。

原田教授 二月六日に高商大会といふで、彦根公会堂で開き、協議をして居りますね。

平塚町長 それは蒲生以北七郡の委員を集めたのです、死にましたが、仲々やり手で、東浅井の藤沢万九郎といふ人を座長に押して、万場一致、大いに後援をするといふ協議をさせたのです。

原田教授 その時に、「累を県費に及ぼさざることを適當とす」といふやうなことを云つて居りますね。

渡辺氏 大津まで行つて演説会を開いたり、大いにやつたものですね。

原田 その当時の心持があれば県庁なんかも……。

矢野 心持はあつても経済的に困難でせう。

平塚 今は人間が賢くなつて居りますから、表面だけは体裁のいゝことを云つて居るが、仲々そうは行きません。

浅見教授 地鎮祭の時は、賑かだつたそうですね。

平塚町長 地鎮祭の時は、変装行列や色んな催があり、その他落成式や開校式等、二度か三度お祭り騒ぎをやつてゐます。

浅見教授 講堂のあるところは、堀を埋立てたのですね。

平塚町長 そうです。／それから、敷地の真中に家が一軒あつて、非常に良い水が出てゐました。

原田教授 その井戸か知りませんが、井戸は高い値で買収してゐますね。

平塚町長 そうです、高い金をかけたといふので。

浅見教授 小使室の近くの大きな松の木が、地鎮祭の写真にも残つて居りますね、

渡辺氏 あれは赤田といふ家でした。

平塚町長 北の方は、もう少し向へ上げられたのですけれど、何かの時に残して置かうと思つて。

渡辺氏 滋賀県から出た有名な書家鳴鶴の家が、丁度商品陳列館あたりにありましたね。

浅見教授 商業か何処かにお寺があつたのですか。

平塚町長 彦商の奥の方にはありました、初め講道館とか云ふて居つたが、後で寺院見たいになつて、西本願寺の手に落ちたか、坊さんの学校がありました。

田岡教授 学校の敷地で有名な人の屋敷跡といふのは？

渡辺氏 此の辺が昔、今村と云つて、三笠、山田、赤井上、日下部等十四軒あり、西中島に十一軒あつた。ポートハウスの裏に宇津木といふのがあつて、これが弓の家で名高く、京都の三十三間堂で通し矢をしたといふので有名です。宇津木六之丞ぢやない。／この辺はキレイなところで、鷹の爪と云つて、石崖のあるところに、開かずの御門といふのがあつて、屋根のかゝつた橋がありました。

矢野校長 お城の後ろの竹藪のあるところをならして手入したら、いゝ公園になりませうね。

渡辺氏 あそこが兵器類の入れてあつた処です。

原田教授 麻糸会社のあるところが、米倉かなんかあつたんですね。

渡辺氏 そうです。

矢野校長 監獄跡には、どういふ人が居つたんですか。

田原氏 三千石か、四千石位の方が居りました。

矢野校長 それでは、お忙しいところを大変長時間に亙りまして、色々お話をして頂きまして有難うございました。お蔭で学校としまして、多くの資料を得たことを深く感謝致します。

(文責 在記者)

彦根高等商業学校創立寄附金芳名録 (大正八年)

寄 附 額	氏 名	寄 附 額	氏 名
五〇,〇〇〇円	不破栄次郎 大阪市	一五,〇〇〇	阿部房治郎 兵庫県
一〇,〇〇〇	松本鉄次郎 大阪市	一〇,〇〇〇	原弥兵衛 大阪市
一〇,〇〇〇	深沢富太郎 大阪市	一〇,〇〇〇	野瀬七郎平 兵庫県
一〇,〇〇〇	一宮喜十郎 京都市	五,〇〇〇	下村耕次郎 大阪市
二〇,〇〇〇	安居喜八 彦根町	一〇,〇〇〇	安居喜三郎 彦根町
二〇,〇〇〇	大橋弥一郎 彦根町	五,〇〇〇	大橋正蔵 彦根町
一〇,〇〇〇	北川与平 高宮町	一〇,〇〇〇	吉田羊治郎 高宮町
一〇,〇〇〇	兎玉一造 大阪市	一〇,〇〇〇	西田庄助 千本村
二,五〇〇	前川弥助 高宮町	五,〇〇〇	前川善三郎 高宮町
一,〇〇〇	実川正太郎 彦根町	四,七五〇	原甲次郎 彦根町
七,五〇〇	西川庄五郎 彦根町	五〇〇	田中捨次郎 彦根町
六〇〇	井戸庄太郎 彦根町	五,〇〇〇	安居喜造 彦根町
一,五〇〇	島津吉兵衛 彦根町	一,五〇〇	丹下徳治郎 彦根町
五〇〇	吉原定吉 彦根町	二〇〇	橋詰庄太郎 京城市
五〇	中溝清吉 彦根町	一〇,〇〇〇	前川善平 彦根町
五,〇〇〇	広野織蔵 彦根町	一,〇〇〇	藤居喜八 彦根町
一,〇〇〇	中村惣吉 彦根町	一〇,〇〇〇	岸田杢 兵庫県
一〇,〇〇〇	弘世助太郎 兵庫県	一〇〇	中島栄 彦根町
一七,五〇〇	伊藤忠兵衛 豊郷村	一〇,〇〇〇	伊藤忠三 豊郷村
三,五〇〇	村岸休五郎 彦根町	二,〇〇〇	中川留三郎 大阪市
二,〇〇〇	松宮庄蔵 大阪市	一,五〇〇	加納基 彦根町
一,〇〇〇	弘世正二郎 兵庫県	一,〇〇〇	西田政次郎 大阪市
二〇〇	井戸駒次郎 彦根町	一,〇〇〇	鈴木省三 彦根町
一,〇〇〇	山中利一郎 北五個荘村	二,五〇〇	岸田棟三郎 彦根町
二,〇〇〇	不破弥太郎 兵庫県	一,〇〇〇	柴林宗太郎 葉山村

- | | | | | | |
|---------|-------|-----|---------|-------|-----|
| 五〇〇 | 山口栄次郎 | 大阪市 | 五〇〇 | 川崎ちか | 彦根町 |
| 二, 〇〇〇 | 小川岩吉 | 大阪市 | 一〇, 〇〇〇 | 阿部市太郎 | 大阪市 |
| 一五, 〇〇〇 | 井伊直忠 | 東京市 | 一, 〇〇〇 | 前川惣次 | 彦根町 |
| 三〇〇 | 志賀谷彖藏 | 彦根町 | 一五〇 | 安藤助次郎 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 円城安次郎 | 彦根町 | 一五〇 | 杉江太平 | 彦根町 |
| 一五〇 | 西脇二平 | 彦根町 | 一〇〇 | 前川松次郎 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 高田文吾 | 彦根町 | 一〇〇 | 相場庄太郎 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 相場市藏 | 彦根町 | 三〇〇 | 田中徳三 | 彦根町 |
| 五〇〇 | 小倉捨次郎 | 彦根町 | 二〇〇 | 奥野久太郎 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 門野徳三 | 彦根町 | 一〇〇 | 杉本広吉 | 彦根町 |
| 五〇〇 | 上田辰次郎 | 彦根町 | 一〇〇 | 塚本与惣吉 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 吉川捨次郎 | 彦根町 | 一, 二〇〇 | 水野政介 | 彦根町 |
| 五〇〇 | 満島善次郎 | 彦根町 | 一〇〇 | 馬場精一 | 彦根町 |
| 三五〇 | 福山源吾 | 彦根町 | 二〇〇 | 中島達也 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 毛利勘次郎 | 彦根町 | 七五〇 | 小堀留次郎 | 彦根町 |
| 三〇〇 | 花木英二郎 | 彦根町 | 一〇〇 | 後閑繁次 | 彦根町 |
| 一, 〇〇〇 | 中田熊次 | 大阪市 | 二〇, 〇〇〇 | 石橋彦三郎 | 彦根町 |
| 四〇〇 | 津田兼吉 | 彦根町 | 一〇〇 | 谷田藤吉 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 樋口繁次郎 | 彦根町 | 三〇〇 | 中村千代子 | 彦根町 |
| 二〇〇 | 松居六三郎 | 彦根町 | 一〇〇 | 森本利兵次 | 彦根町 |
| 一五〇 | 村岸つま | 彦根町 | 二〇〇 | 伊藤喜三郎 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 村田定次郎 | 彦根町 | 四〇〇 | 北川惣八 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 村田助次郎 | 彦根町 | 一〇〇 | 平居九郎平 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 吉原岩吉 | 彦根町 | 一〇〇 | 石田佐七 | 彦根町 |
| 一五〇 | 近藤栄藏 | 彦根町 | 一〇〇 | 西沢津る | 彦根町 |
| 一〇〇 | 田中虎吉 | 彦根町 | 一五〇 | 蒲山長次郎 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 明塚鉄太郎 | 彦根町 | 四〇〇 | 石田捨次郎 | 彦根町 |

- | | | | | | |
|--------|--------|-----|--------|--------|-----|
| 二〇〇 | 福永重太郎 | 彦根町 | 一〇〇 | 坂吉太郎 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 内山敬太郎 | 彦根町 | 一〇〇 | 下村重次郎 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 桑原益方 | 彦根町 | 一〇〇 | 近沢宗太郎 | 彦根町 |
| 三七.五 | 北川こう | 彦根町 | 一〇〇 | 田中八右衛門 | 亀山村 |
| 五〇〇 | 後藤弥平 | 彦根町 | 一, 〇〇〇 | 橋詰猪三郎 | 彦根町 |
| 二〇〇 | 上田重次郎 | 彦根町 | 二〇〇 | 森彦三郎 | 彦根町 |
| 四〇〇 | 清水長三郎 | 彦根町 | 一五〇 | 植田外吉 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 北村利平 | 彦根町 | 一〇〇 | 植田松次郎 | 彦根町 |
| 二, 五〇〇 | 藤田太吉 | 彦根町 | 一五〇 | 木下喜七 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 上田安常 | 彦根町 | 一五〇 | 瀬古宗哉 | 彦根町 |
| 一五〇 | 阿知波勘兵衛 | 彦根町 | 一〇〇 | 寺居豊次郎 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 羽淵嘉平 | 彦根町 | 一五〇 | 河村純達 | 彦根町 |
| 二〇〇 | 松居善吉 | 彦根町 | 二五〇 | 寺村千太郎 | 彦根町 |
| 二〇〇 | 夏川久七 | 彦根町 | 一〇〇 | 梶田嘉造 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 沢田十代吉 | 彦根町 | 一〇〇 | 川村鉄造 | 彦根町 |
| 二〇〇 | 若林敏次郎 | 彦根町 | 一〇〇 | 上田庄二郎 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 宮村才次郎 | 彦根町 | 一〇〇 | 西脇広吉 | 彦根町 |
| 一三〇 | 野村善七 | 彦根町 | 一二〇 | 宮本善次郎 | 彦根町 |
| 四二〇 | 家森喜太郎 | 彦根町 | 一〇〇 | 三谷源三郎 | 彦根町 |
| 二〇〇 | 広田延一 | 彦根町 | 一二〇 | 大萩重太郎 | |
| 三〇〇 | 宮下平次 | 彦根町 | 三〇〇 | 若林たみ | 彦根町 |
| 二〇〇 | 村岸文蔵 | 彦根町 | 三二五 | 田付新五郎 | 彦根町 |
| 三五〇 | 若松栄吉 | 彦根町 | 一五〇 | 川口彦十郎 | 彦根町 |
| 一五〇 | 田村房次郎 | 彦根町 | 一五〇 | 正村猪八 | 彦根町 |
| 一五〇 | 若林九兵衛 | 彦根町 | 一五〇 | 石田庄三郎 | 彦根町 |
| 一五〇 | 三輪弥平 | 彦根町 | 一〇〇 | 日夏五平 | 彦根町 |
| 一五〇 | 小島卯三郎 | 彦根町 | 四〇〇 | 北川九郎平 | 彦根町 |

- | | | | | | |
|---------|--------|-----|--------|-----------|-----|
| 一〇〇 | 川添広吉 | 彦根町 | 一〇〇 | 小林貞次郎 | 彦根町 |
| 一五〇 | 藤田庄太郎 | 彦根町 | 三五〇 | 小椋周蔵 | 彦根町 |
| 一五〇 | 近藤市右衛門 | 彦根町 | 一〇〇 | 桂田留次郎 | 彦根町 |
| 一五〇 | 竹村伊平 | 彦根町 | 二七〇 | 外村兼次郎 | 彦根町 |
| 一五〇 | 青根幾太郎 | 彦根町 | 一五〇 | 北川七兵衛 | 彦根町 |
| 二〇〇 | 前島仙次郎 | 彦根町 | 一, 〇〇〇 | 兼松寅太郎 | 彦根町 |
| 一〇, 〇〇〇 | 田附政次郎 | 大阪市 | 七五 | 片山回天堂能登川町 | |
| 一〇〇 | 高田徳三郎 | 彦根町 | 二五 | 松本文太郎 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 田井中牧八 | 彦根町 | 一〇〇 | 大平太郎 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 奥村松平 | 彦根町 | 二〇〇 | 新木三次 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 田中左門 | 彦根町 | 一五〇 | 後藤健蔵 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 衣斐孫次郎 | 彦根町 | 三〇〇 | 山塚房吉 | 彦根町 |
| 二〇〇 | 秋山泉三 | 彦根町 | 一〇〇 | 木野戸宮雄 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 木村源次郎 | 彦根町 | 八五 | 広田七次郎 | 彦根町 |
| 五〇〇 | 大橋庄太郎 | 彦根町 | 二五 | 力石賢蔵 | 彦根町 |
| 一五〇 | 堀部銈次郎 | 彦根町 | 一〇〇 | 長崎尚次郎 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 北川庄太郎 | 彦根町 | 一〇〇 | 藤田重兵衛 | 彦根町 |
| 一, 〇〇〇 | 小堀鶴吉 | 彦根町 | 一〇〇 | 木下長太郎 | 彦根町 |
| 一〇〇 | 北川スエ | 彦根町 | 一〇〇 | 西野てい | 彦根町 |
| 一五〇 | 田部栄三 | 彦根町 | 一二〇 | 松居嘉平 | 彦根町 |
| 一五〇 | 目加田信吉 | 彦根町 | 二〇〇 | 中村仁平 | 彦根町 |
| 二〇〇 | 出口いと | 彦根町 | 二五〇 | 松居常次郎 | 彦根町 |
| 一, 〇〇〇 | 大海原尚義 | 東京市 | 五, 〇〇〇 | 小田柿捨次郎 | 東京市 |
| 一, 〇〇〇 | 菴原柳次郎 | 東京市 | 一〇〇 | 福田俊 | |
| 一〇〇 | の場順一郎 | 彦根町 | 一五〇 | 若林増次郎 | 彦根町 |
| 一二〇 | 前川弥太郎 | 彦根町 | 一〇〇 | 寺脇太七 | 彦根町 |
| 三〇〇 | 山田弾 | 彦根町 | 一〇〇 | 藤田源七 | 彦根町 |

一〇〇	尾本庄兵衛	彦根町	一〇〇	渡辺九一郎	彦根町
一五〇	西村庄次郎	彦根町	二〇〇	中島猪三郎	彦根町
五〇〇	粕淵弥太郎	彦根町	二〇〇	西田喜平	彦根町
二〇〇	稲垣捨次郎	彦根町	二〇〇	富田半七	彦根町
一五〇	西村要次郎	彦根町	一五〇	中村次平	彦根町
一〇〇	北沢孫七	彦根町	五〇	富田太吉	彦根町
五〇	井口捨		五〇	近藤政次郎	
五〇	小財猪之吉		一, 〇〇〇	数江三左衛門	神奈川県
三〇〇	目加田助二郎	彦根町	一〇〇	小倉仁三郎	彦根町
一〇〇	宮内甚九郎	彦根町	二〇〇	乾喜七	彦根町
一二〇	伊藤利平	彦根町	八〇	南沢長次郎	彦根町
二〇〇	岩崎光治郎		二〇〇	阿知波勘次郎	彦根町
三, 〇〇〇	伊藤長兵衛	豊郷村	二〇〇	上野庄太郎	彦根町

彦根高等商業学校（以下、彦根高商、とする）の教職員の履歴は、まだよくわからない点が多い。『彦根高等商業学校一覧』の各年度版¹⁾によって、教職員の着任時期と職域をあげよう。

この座談会のときの校長（第2代）である矢野貫城（マスター・オヴ・アーツ、高知出身²⁾）は、1927年度に校長として着任した。1929年度から担当学科目とし

1) この『学校一覧』という文献については、阿部安成ほか「彦根高等商業学校収集資料のポリテクス」（『彦根論叢』第344・345号、2003年11月）のV「『学校一覧』の起源とその存在意義」（所澤潤執筆）を参照。現在、滋賀大学経済経営研究所には、彦根高商の『学校一覧』は第2年度から第21年度までの20冊がある（第1年度はコピー）。それらには、「調査課」「商品課」のスタンプや「大橋」の印鑑が押されていたり、「大橋」「渡辺殿」の紙片が貼られていたり、「梗間用」と墨書されていたりするので、いくつかの所蔵元から調査課にあつめられて現在にまで引き継がれてきたとおもわれる。とくに記さないかぎり、1923年度のことは1923年版の『彦根高等商業学校一覧』によった。出典を明記する必要があるばあいは、その『学校一覧』発行の開校から数えた年度と西暦の年度とを順に、『一覧①1923年度』のように略記する（開校第1年度が1923年度、となる）。

2) 彦根高商から滋賀大学経済学部までを連続して記した最初の学校史といってよい、\

て修身があがっている。主席教授と紹介された田岡嘉寿彦（法学士）³⁾は、1929年度の着任。着任の年に、評議員、図書委員、研究部員となり、その翌年からは、調査委員を毎年、教務課課長を1933年度をのぞいた毎年、担った。田岡の担当した学科目は、着任からこの座談会開催時までのすべてあげると、商法、民法、商事法規、商業経営実践、研究指導、となる。田岡はのち、1942年度に第4代校長となる。

調査課と関係が深いという原田博治（商学士、岡山出身）は、着任した1925年度早々に、図書委員、研究部員、研究部調査幹事を務め、その後、図書課長なども担うなかで、1926年度の1年間をのぞいて、一貫して研究部員・調査委員を担ってきた（1928年度・1929年度には評議員）。原田は数多くの学科科目を担当し、それらをすべてあげると、会計学、商工経営、独語、工業簿記、取引所（論）、企業経営論、信託論、銀行論、英書講読、商業概論、交通論、海運論、市場及倉庫論、商業経営実践、商業実践、商業学、簿記、研究指導となる。

このとき庶務課長だった浅見信次郎（または信次良。経済学士、埼玉出身）は、この座談会に出席した教職員のなかで最古参となる⁵⁾。1923年度の開校時に講師として着任ののち、翌年度には教授に昇進（1924、1925、1928、1929年度に評議員）。そして、1926年度と1927年度の2年間は、在外研究をおこなった⁶⁾。浅見も、研究部常務幹事と調査課課長、あるいは教務課課長を担任した。浅見の担当学科科目は、経済原論、経済学、財政学、第二外国語としての仏語、商業政策、現行租税法、研究指導、農業政策、商業経営実践、だった。

➤『陵水三十五年』（陵水三十五年編纂会代表芳谷有道編、1958年）で、矢野は「彦根学園の十二年の思い出」を載せている。矢野の回想の頁には、座談会陵水版でつかわれた写真が掲載されている。

3) 前掲の『陵水三十五年』で田岡は「官立工専へ転換のいきさつ」を執筆。

4) この経歴にふさわしく原田は前掲『陵水三十五年』に、「図書館成長時代の思い出」を寄せている。

5) 前掲『陵水三十五年』の教官と学生の回想は時代別となっていて、浅見はもっともふるい「創設時代」のなかで「低徊願望」を記している。

6) 1926年1月からの在外研究の在外国はフランスとなっている（「教官海外研究経歴」『一覧⑤1927年度』）。

彦根高商の卒業生という桑原晋（経済学士）は、1933年の着任。熊本出身で彦根高商の第1回入学生⁷⁾。卒業後には京都帝国大学に進学した高森晋が（『一覧④1926年度』）、そののち京都帝大大学院在学中に、桑原と改姓した（『一覧⑨1931年度』）。着任後は毎年、調査委員となる。担当学科科目は、経済学、経済原論、商業政策、景気論、英書講読、貨幣論、研究指導である。

校長による紹介のない、杉井武郎（三重出身）と、速記者の西沢政之（滋賀出身）は、前者が1924年度から雇員として彦根高商に在職し、商品課、調査課、教務課の事務を兼任し、1934年度に事務嘱託となってからは、あらたに商品実験の事務も担った。後者は1926年度から雇員として在職して、おもに研究部と生徒課の事務を担った（ほかには図書課と調査課）。

ここであらためて、調査課と研究部について記しておこう。開校の年度に学内に設けられた調査課の職掌については、彦根高商の「校務分掌規程」（『一覧①1923年度』）ではその第16条で、「調査課の主掌事務」は、

- 一、商業及経済に関する諸般の調査を行ふこと
- 二、研究資料の蒐集、分類、整理、及保存に関すること
- 三、調査用新聞の切抜、整理、及保存に関すること
- 四、調査報告の発表に関すること
- 五、その他、商業及経済上の調査に関する一切のこと

となっている。この調査課は1926年5月29日に廃止となり、同時に研究部が設置された。「研究部規程」（『一覧④1926年度』）は、つぎのとおりである（こ

7) 彦根高商で生徒として、かつ教官として過ごした桑原は、戦後に彦根経済専門学校の復活に尽力するものの、GHQより追放処分をうけることとなる。前掲『陵水三十五年』では、「戦時時代」のなかで「一六勝負のご破算時代」を記した。なお『陵水三十五年』の編者である芳谷有道は桑原と彦根高商の同期生、1928年度に事務嘱託として彦根高商に着任（研究部配属）、1929年度には教務嘱託（商業作文）も兼任し、1930年度には助教授（商業作文担当、学位記述なし、翌年度に商業算術が追加）となり、その後は生徒主事補となって助教授職を兼務する 때가数年度あり（そのかん、商業数学、商業経営実践を担当）、1937年度に教授に昇進した（学位記述なし）。芳谷は、彦根高商卒業の翌年度に日本陶器株式会社（名古屋）に就職し、その翌1928年度には彦根町立図書館に転職した。現在、滋賀大学附属図書館には個人名を冠した唯一の文庫として「芳谷有道記念文庫」がある。

ののちいくぶんの変更があるが、それは省略する)。

- 一、本部は商業経済及其他の学術に関する調査研究及び之が指導を為すを目的とす
- 二、本部に左の役員を置く
 - 1、部長 一人／部長は学校長之れに任し、本部を統括す
 - 2、幹事 四人／常任幹事二人、調査幹事二人とし、委員の互選せる各三名の候補者につき、学校長之を命じ、任期は各々一ケ年とす
 - 3、委員／委員は教官中より部長之を命じ、所定の研究調査事項を分担す
- 三、常務幹事の職掌、左の如し／1、本部事務の統括／2、研究調査資料の蒐集／3、委員会議事整理／4、本部の設備及備品の保管／5、其他調査幹事の主管に属せざる事項
- 四、調査幹事の職掌、左の如し／1、研究調査の統括／2、資料の分類、整理及保管／3、生徒研究の指導／4、調査研究の報告、発表及公刊／5、講演及講習の開催／6、公衆の依頼による質疑応答
- 五、委員会は部長、幹事又は委員の提議により部長之を開催し、本部の重要事項につき審議す

ついで、1930年11月19日に、商品課と研究部が廃止となり、同時に調査課が設置され、あわせて調査委員規程と調査課資料閲覧規程が制定された。「校務分掌規程」(『一覽(1930年度)』)の第13条によると、

- 一、商業、経済、法律及其他之に関する学術調査研究に関すること
- 二、調査研究資料の蒐集、整理、及保管に関すること
- 三、調査研究の報告、発表及公刊に関すること
- 四、資料の閲覧及貸出に関すること
- 五、講習に関すること
- 六、公衆の依頼による質疑応答に関すること
- 七、調査委員会に関すること
- 八、大礼記念奨学資金運用に関すること

九、商品陳列館の設備に関すること

一〇、商品見本の蒐集、整理及保管に関すること

一一、移植民調査室に関すること

一二、其の他調査研究に関すること一切

が、あらたな「調査課の主掌事務」である（本稿では「調査委員規程」「調査課資料閲覧規程」「大礼記念奨学資金に関する規程」を省略する）。再設置された調査課の職掌には、研究部での実績をふまえてのことであろう、それを引き継ぎながら、あらためてとくに、廃止された商品課の業務と、大礼記念奨学資金の運用と、移植民調査室⁸⁾にかかわる業務がくわわったのである。

調査課であれ研究部であれ、その業務として学校史の領域が明確にあげられてはいないのだが、開校から14年めのこのときに、創立当時を回想する座談会を構成した「本校側」の出席者は、調査研究を担う部署に長くかかわった教官であって、創立時を知っている古参のみというわけではなかったのだ⁹⁾。

（阿部安成）

追記 彦根高等商業学校創立寄附者がどのような人物だったのか、学校創立の想起や記念をめぐってなにながおこなわれたのか、についてはべつの機会に記すこととする。

8) この規程ではすべて「移植民調査室」と表記されている。これとの関係は不明だが、研究部があったときに「移植民研究室」が新設され（1930年6月）、のちに調査課の「事業一斑」ではその「研究調査」のなかで「移植民研究室を設け、邦人の海外発展、移植民政策、移植民地事情等の調査研究」をおこなうと掲げられている（1934年4月には移植民研究室が商品陳列館の2階に移転する。以上は、『彦根高等商業学校調査課要覧』彦根高等商業学校調査課、1940年、による）。

9) 座談会開催時の1937年度在籍教官29名（傭外国人教師と武道教師をのぞく、校長、教授、助教授、配属将校、講師が教官会の構成員）、書記・事務嘱託・雇22名のうち、開校第1年度からの在職者は6名（田中秀作、清水義雄、浅見信次郎、秋山範二、中野米蔵、成宮秀夫）、第2年度からは5名（高橋源次、大橋幸雄、安田安、鈴木泰助、杉井武郎）、第3年度からは4名（本田玄雄、安部新、片岡彦一郎、原田博治）だった。このなかから座談会に出席したのは、前述のとおり浅見、杉井、原田の3名である。なお、傭外国人教師としては、開校第2年度の1924年度から彦根高商の『学校一覽』最終刊行となる第21年度1943年度まで白廷貴（支那語、中国）が在職した。